

第3回横浜市少年自然の家指定管理者選定評価委員会 議事録	
開催日時	平成24年10月2日(火) 午後1時25分から午後2時50分
開催場所	横浜市少年自然の家南伊豆臨海学園会議室
出席者	<p>選定評価委員</p> <p>石井 一也委員、犬塚 文雄委員長、松永 昌幸委員、渡辺 祐子委員(五十音順)</p> <p>指定管理者(横浜市体育協会)</p> <p>施設経営部長、南伊豆臨海学園長ほか3名 教育委員会事務局4人</p>
傍聴者	なし
議題	<p>1 「評価シート」に基づくヒアリング</p> <p>2 次回の委員会の予定について</p>
審議内容	<p>議題1 (主な質問と回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H23の利用状況が以前より減少しているが、地震の影響は。 →昨年の地震の後、キャンセルが出て前年より数字が落ちている。今年 は内閣府の津波の高さの発表の影響が大きく、年度当初は82校の予約 があったうち46校がキャンセルした。先日、校長会で状況説明を行っ たので、来年は今年より良くなると思うが、急速に利用者が戻るとは考 えていない。</li> <li>・一度は利用する予定になっていたのか。 →はい。去年までは、6月に募集し7月に利用の決定をしていたので、 8月にはその結果の連絡が学園に届いていた。しかし今年は募集を遅く している。9月に募集し10月に調整することにしたので、まだ来年の 計画の連絡が来ていない。現在、学校にお願いしているところ。</li> <li>・推測として、減少が抑えられそうか。 →まだ80校に戻る状況ではないが、5~10校ほど増えると思う。夏休 みの学校以外の利用ではキャンセルはほとんど無かった。</li> <li>・この施設の趣旨からすると学校利用が中心だと思うが、学校長会には具 体的にどのような説明を行ったか。 →先日横浜へ行き、学園を利用したい学校の校長先生に集まってい たき、どういう避難経路を使うかなどの対応を説明した。</li> <li>・カッターに乗る場合の安全管理に関して、ライフジャケットの耐用年数 は決まっているか。 →ライフジャケットとしての機能を失わない限り使用できる。ただし、 一般的にライフジャケットは普段は身に着けない場合が多いが、ここで</li> </ul>

は常に身に着けた状態のため、一般のライフジャケットの場合よりも交換の期間は短い。

- 子浦の漁港の中で漁師の方々との調整していることはあるか。  
→海を使う立場で、漁師の使用する航路への配慮や、台風の場合の船の引き上げは邪魔にならない時間に行っている。
- 地引網体験の横浜市の子どもたちの利用率は。  
→去年までの利用者アンケートに活動希望としてあった中で今年から始めたので、まだ1校のみ。
- 農業体験のような海以外のイベントを検討しているか。  
→今年は農協で受け入れてくれた。学校からも希望があった。田んぼを貸し出しても良いという話や、スポット的に田植えや稲刈りの体験をしても良いという話もいただいている。学園は使いたいけど海は怖いという学校を繋ぎ留めるためにも考えたい。
- 新しい企画を考えて実行に移す時は、独自でやるのか、それとも横浜市と協議するのか。  
→学園職員は南伊豆に生まれ育った人間なので、横浜市民との間には感覚のズレがあると思う。学校などにどういったことを希望しているのか、ある程度訊いて企画している。
- 海の活動は、雨天の場合はどこで行うのか。  
→研修室で行う。2校が同時に利用している場合でも、全く同じスケジュールということはないので、工夫をしている。
- 学園へ来るのに、車以外ではどうやってくるのか。  
→電車とバスを乗り継いで下田からくる。
- 近隣の民宿には送迎バスはあるか。  
→持っていない。大きなホテルなら持っている。
- 盗撮防止のために行っていることは何か。  
→職員が館内を巡回し、利用者の状況を見ている。職員間で情報を共有し、ユニフォーム姿で見回るようにしている。
- 施設でアルコールを飲めるか。また、学生が持ち込むことはあるか。  
→飲めない。アルコール禁止を理解した上で利用してもらっている。
- 美浜小学校と市立学校との交流は今でもあるのか。  
→昨年までは三ツ沢小学校が行っていたが、あまりにも人数が違いすぎて交流にならないので今年度から中止になった。
- 活性化するにはどうしたら良いか。  
→建物がもう少しホテル並みだったらと思う。2年前に屋根の改修は終わったが、それまでは雨漏りなどもあった。また、部屋のつくりなど

も、家族向けに出来ればと思う。今は核家族化に対応していないと厳しい。閑散期の目玉商品がないのが、伊豆半島全体の永遠のテーマ。

- 温泉は出るか。  
→出ない。出ても、海岸線に多いのは海水が温まった塩湯で管理が難しい。
- 民間と伍していくには、送迎と温泉と料理が必要だが、そのうち二つが欠けている。  
→特別料理を用意している。
- 評価シートに「職員のスキルアップ研修では、資格のある職員が講師となり行っている」とあるが、どのようなことをしているのか。  
→施設内研修ということで、職員が他の職員に向けて行っている。外部講師としてカヤックの業者をお願いしているが、その方と職員をペアにして子どもたちの活動につけて技術を学ぶこともしている。
- 年末年始の利用拡大の効果はどうか。  
→昨年始めたばかりだが、バイクのツーリング1団体だけ利用者があった。今年もまたやってみて傾向を見てみたい。
- 給食食材のクラフト材料への後利用は大変良い発想で、もっとクローズアップされても良いと思う。  
→ある年、サザエが大量に水揚げされ、漁協より頼まれて購入したが、殻がゴミになるので、サザエキャンドルとして取り組んだのが最初。
- 利用者の拡大について部活動の合宿プランを企画しているようだが、部活動は専門の施設が必要となるので、むしろサークルや同好会に声を掛けたほうが良いのでは。また、私立高校に声を掛けているか。  
→声を掛けている。利用実績もあった。
- 横浜市内の学校か。  
→いいえ。高校も大学も市外の学校。
- 使えるグラウンドはあるか。  
→町営のグラウンドがあり、手配も学園で行っている。
- ホームページの公開は、体育協会で行うのか。  
→学園で行っている。
- どのくらいの頻度か。  
→載せる記事にもよるが、1カ月に1回ぐらい。
- 自主事業の申込みは、何を見て申し込んでくるのか。  
→参加者へのアンケートによると、チラシを見てというのが多い。  
市内のスポーツセンターなどでチラシを見て、ホームページにアクセスする方が多い。また、学校で配布している情報誌を見てホームページに

	<p>アクセスする場合もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価シートの「閑散期における利用促進が図られているか？」が A になっているのは、ある程度の感触を掴んでいると感じているのか。 →ファミリーでの利用を計画している。温泉が他では豊富なので、温泉に入ったり遊んだりが十分できるフリープランを企画している。他に合宿プランもあり 1泊二千円を切る料金で利用できる。</li> <li>・長期継続勤務の職員が多いが、次の世代の人材育成は行われているか？ →指定管理者制度なので難しい点もある。法人全体の中での人事の問題と、市外の施設であるところから、どこで採用するかということもある。全体の中で、この点についても考えていかなければならない。</li> <li>・宿直職員 1 人の配置だが、繁忙期に多くの子どもたちが宿泊している状況下でも対応に問題はないか。 →泊りの職員は 1 名だが、緊急の場合は園長か他の職員が来られる体制を採っている。急病人が出たときの病院対応がほとんどだ。</li> <li>・赤城と南伊豆の職員間で、情報交換や意見交換の機会はあるか。 →体育協会本部で最低でも年 2 回は開催する、市内の野外活動センターの所長も含めた会議に両施設長が出席し、情報交換している。</li> <li>・子どもたちも参加しての避難訓練は行っているか。 →行っている。昨年までは施設内での避難訓練だったが、今年からは海まで行って避難経路を確認している。学園に来たら最初に行くように依頼している。</li> <li>・東日本大震災発生以降、放射能汚染の測定等は定期的実施しているか。 →測定はしていないが、栄養士が新聞に掲載されている伊豆地区の数値を把握している。</li> </ul> <p>議題 2</p> <p>第 4 回委員会は、関内周辺の会議室で開催予定。各委員から赤城・南伊豆の両評価シートを回収し事務局でとりまとめたものを提示し、審議のうえ評価シートを確定する。開催日時については、今後調整する。</p>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・横浜市少年自然の家南伊豆臨海学園 評価シート</li> </ul>